

2021年1月26日
CP18041 甲島 沙也加
CP18092 西村 優希

「感動した建築」

1. 対象物諸元

広電宮島口駅から徒歩一分に位置する「宮島口旅客ターミナル」は、2020年2月29日より供用開始となった。広島県の中でも特に人気の観光スポットである宮島へと続く玄関口として相応しくなるようリニューアルされた。新しく生まれ変わった宮島口旅客ターミナルでは、これまで二つあったフェリー乗り場が一つのターミナルビルへと集約されることによって、より利用しやすくなった。



2. 動機・感想

昔からなじみのある宮島口のターミナルがリニューアルオープンされたことを耳にし、実際に足を運んで見物してみることとした。

中に入ると、天井が高く2層分の吹き抜けが広がっており、開放感のある造りになっていた。天井の一部はガラス張りになっているため、明るい光に満たされていた。

壁で完全に閉鎖された空間ではなく、一部の壁がない構成になっているため、宮島まで視線が抜ける、半屋外の多い気持ちの良い建築となっていた。屋根部分には、木がふんだんに使用されていて、白い鉄骨によって構成された空間との対比が良いと感じた。宮島と廿日市のつながりが感じられるターミナルビルとなっていた。



3. 利用者の状況

コロナ禍の平日にもかかわらず、ツアー客らしき団体や、ターミナルの写真を撮りに来た人、親子連れなど、かなり多くの人々が利用していた。宮島へ渡る人はもちろん、海を眺めながら広島ならではの食事や買い物を楽しむ人が多く、宮島へと渡らない地元の住民にも人気があるのではないかと考えられる。



4. 対象物件の設計意図調査

現在建てられている「宮島口旅客ターミナル」は設計プロポーサルで乾久美子さんの提案が選定されたものである。

乾さんは、宮島口と宮島の、二つのフェリーターミナルエリアをデザイン的に「つなぐ」ために、世界遺産・宮島の玄関口をしてすでに整えられている宮島側の参道の「和」の景観リソース（植栽、石畳など）や鳥居の構造形式を継承したデザインを提案された。

屋根や庇の勾配、素材に関係性をもたせ、地域全体で一体感をつくることを提案され、沿道の住民や地区内事業者が取り入れやすい屋根や庇を景観誘導な主要な要素とすることで、多くの主体が新しい宮島口をつくることに参加できるようになっている。屋根のあつまりで地域全体がつながるデザインとなっている。

このように、乾さんは「つなぐ」ことを重視し、この「宮島口旅客ターミナル」を提案されている。

